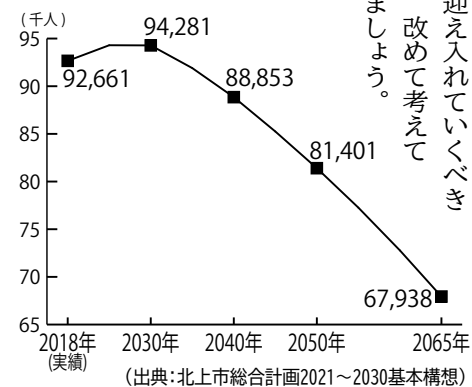




住むならやっぱり 北上がよい

■北上市の将来人口の見通し



か、改めて考えてみましょう。
私たちがどのように移住者を迎えていくべき

今回の特集では、実際に移住した人たちの声や、移住をサポートする取り組みを紹介します。「住むならやっぱり北上」と思ってもらえるよう、

人口が減少すると、経済活動の停滞や地域コミュニティの衰退など、その影響は広く及びます。特にも、企業の立地に伴う産業集積が進む当市においては、働き手の不足が大きな課題になります。つまり、人口減少は当市に住む全ての人に関わる問題といえます。

※Uターン…地方で生まれ育った人が都市部に移住した後、再び出身地に戻ることに。Iターン…都市部で生まれ育った人が地方に移住すること。

人口が減少すると、経済活動の停滞や地域コミュニティの衰退など、その影響は広く及びます。特にも、企業の立地に伴う産業集積が進む当市においては、働き手の不足が大きな課題になります。つまり、人口減少は当市に住む全ての人に関わる問題といえます。

人口減少が進む今こそ
改めて考える「移住」

全国の地方都市で問題となっている人口減少。それに歯止めをかけるべく、当市を含めた多くの自治体がU・Iターン(※)などの移住を推進する施策に力を入れています。



高橋 侑さん・恵さん・一花ちゃん・碧一くん

平成29年3月、東京都葛飾区から北上市へ移住。
相去町の実家の敷地に自宅兼店舗を建てて、夫婦で鍼灸整骨院を営んでいます。自宅からすぐ近くの北上総合運動公園が家族のお気に入りスポット。

係が狭くなってしまう不安があったそうです。そんな時、子どもの学校行事や学童保育などを通じて、ママ友のつながりができました。「移住者にとつて、地域の集まりは顔を知ってもらえるチャンスですね」と当時を振り返ります。

また、以前は夫婦2人で奮闘していた子育ても、同じ敷地内に住む侑さんの両親によるサポートのおかげで「安心して仕事と子育てが両立できる」と話します。



心に決めていたUターンと開業

「実は資格を取得する時点で、いずれは北上で開業すると決めていました」と話す侑さんは、北上市で生まれ育ち、大学進学を機に県外へ移り住みました。卒業後は、資格取得を経て都内の整骨院で勤務。院長を務めるなど、将来の独立を視野に入れながら経験を積



みました。そして平成29年3月、長女の小学校入学に合わせて、家族で北上市へUターン。現在は、相去町の実家の敷地に建てた自宅兼店舗で、夫婦で鍼灸整骨院を営んでいます。

夫の地元での新生活

妻の恵さん（福島市出身）はUターンを決意する際、「開業するなら夫の地元が良いと思った」と前向きだったそうです。しかし、開業してからは、院内での事務や治療補助などに奔走する日々。自宅が職場を兼ねており便利な反面、外に出ることが少なく、交友関

交通アクセスが良くて
まちがコンパクトな北上市

「県外に住んだことで視野が広がり、改めて北上市の良さが見えるようになった」と話す侑さん。特にも「セミナー参加や知人に会う際など、東京に行きやすい」と、新幹線など交通アクセスの良さを感じるそうです。

恵さんは「まちがコンパクトで住みやすい」と話します。買い物、保育園の送迎、小児科への通院といった一連の流れを、近い範囲で済ませることができるそうです。また、少し車を走らせると夏油エリアに行けるため、子どものスキー教室や家族で温泉などを楽しめることも魅力だといいます。市の

中心部には飲食店も多く、趣味のカフェ巡りでもお気に入りのお店を見つけたようです。

3世代近居は「ちょうどいい距離感」

侑さんの父・等さんは「何かあれば手伝いができるし、集まって食事もできる」と、息子家族との近居生活を楽しんでいます。また、同じ敷地内で自宅を別に建てたことについては、「孫ともすぐに行き来できて、プライベートも大事にできる。ちょうどいい距離感」と話します。



知人の笑顔が見られることが幸せ

2人が営む鍼灸整骨院には、小学生から高齢者まで、さまざまな悩みを抱える人たちが来院します。地元で開業して良かったことを侑さんに何うと、「昔からの知り合いが患者として来てくれる。その人たちが抱える悩みを解決して、笑顔を見られることが何より幸せ」と話します。

恵さんは「知らない土地でも住んでみると何とかなります（笑）。新しい知り合いができたし、夫の両親が頼りになる」と楽しげに話してくれました。



松岡 冴^{さえ}さん

平成31年4月、東京都大田区から北上市へ移住。
現在は北上市地域おこし協力隊として活躍しています。日々の活動はツイッター「岩手県北上市地域おこし協力隊 養蚕部門」で発信中。



地域おこし協力隊として

養蚕文化の復活を目指す

東京都大田区出身の松岡さんは、大学で染織を学び、卒業後は民間企業に就職して生地の商品開発やデザインを担当していました。また、大学時代には独学で養蚕に取り組み、卒業研究として、飼育したカイコから糸を採取



して着物を織り上げました。

働いていた企業を退職した後、平成31年4月に単身で北上市へイターン。現在は北上市地域おこし協力隊(※)として、これまでの知見を生かし、更木地区を拠点に養蚕文化の復活に向けた活動を行っています。

※三大都市圏や政令指定都市など、都市部の住民が地方に移住し、地域おこし活動を行うってもらうことで地域活性化を図る制度

夢を叶えるために移住

前職を退職した後、養蚕に携わる仕事をしたいと考えていた松岡さん。そ

んな時、北上市地域おこし協力隊の募集記事を見つけました。「自分の夢を叶えるのはここしかない!」と思い、すぐに担当者へ問い合わせたそうです。東北地方へは一度も訪れたことがありませんでしたが、養蚕への強い情熱が北上市へのイターンを決意させました。

移住してから松岡さんを困らせたのは、北国ならではの寒さでした。そんな時、地域の人から灯油ファンヒーターを譲ってもらったことがとても助かったそうです。また、方言の理解が不安でしたが、「意外とみんな標準語で話してくれる」と杞憂に終わったようです。

地域おこし協力隊に着任してからは、養蚕に関するさまざまな活動を行っています。春から秋は、桑畑やハウスでの作業のほか、子ども向けの養蚕体験会など普及活動にも力を入れています。

冬期間は、出荷を見送った繭を活用して絹織物の制作に挑戦。2月には手織りのストールを完成させました。

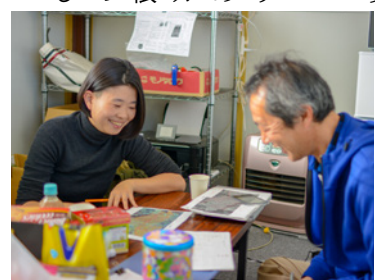


ウエルカム精神が根付く

地域の支え

着任当初は、地域の人に松岡さんの活動が知られていないため苦労もあつたようですが、行事などで顔を合わせるとうちに状況が変化。現在では、気軽

に声を掛けてくれたり、作業を行う工房を紹介してもらうまでに。「私の挑戦を皆さんが支えてくれる。企業が多く、人の出入りがあるためか、ウエルカム精神が根付いているのかな」と話します。



田舎と街のバランスが

ちょうどいい北上市

北上市については、「農地もあるし、大型店舗も多い。田舎と街のバランスがちょうどいい」と感じるそうです。また、以前は「東京から北上市まで5〜6時間くらいかかるんじゃないか」と想像していたそうですが、実際の所要時間はその半分程度。これまで数回、ペットのネコを連れて帰省するなど、「地元(東京)とも気軽につながることができる」と話します。

目標は更木ブランドの確立

将来の夢を伺うと、「養蚕に携わる仕事をするのが夢だったので、もう叶っちゃいました」と笑います。今後は「カイコのほかにも染料となる植物を生産し、オール更木原料を使ってブランドを確立したい。北上、更木っていいなと思ってもらえれば」と、目を輝かせながら地域愛を語ってくれました。



移住を支援する 取り組み

北上市への移住に向けて、検討のステップごとに活用できる主な支援を紹介します。移住を検討しているご家族や知人などにぜひお知らせください。また、市民の皆さんに役立つ事業もありますのでご確認ください。

STEP 1

情報を集めて
相談しよう！

北上市都市ブランドサイト 「きたかみリズム」



北上市の住みよさや魅力などをまとめて紹介。市内で活躍する人々に関する記事も掲載しています。

■問い合わせ…都市プロモーション課 ☎72-8308



いわて暮らしサポートセンター



移住コンシェルジュとキャリア・カウンセラーが、岩手県での暮らしや仕事の相談に応じます。

■ところ…東京都千代田区有楽町 2-10-1 東京交通会館8F



STEP 2

住まいを探そう！

ウェブサイト 「北上市空き家バンク」



空き家の購入・賃貸に関する情報や、市内各所で開催している相談会の情報を掲載しています。

■問い合わせ…都市計画課 ☎72-8278



宅地分譲情報



利便性の高い中心部や、緑に囲まれたお手ごろ価格の区画など、分譲中の宅地情報を紹介しています。

■問い合わせ…都市計画課 ☎72-8278



STEP 3

仕事を探そう！

北上市地域おこし協力隊



現在、3人の隊員を募集中。任期は3年で、月20万円の報償費と、年間160万円の活動費を支給します。

■問い合わせ…都市プロモーション課 ☎72-8308



U・Iターン 定住促進事業補助金



県外在住者がU・Iターン就職する際に、採用試験の交通費と引っ越し費用を一部助成する制度です。

■問い合わせ…産業雇用支援課 ☎72-8243



GOAL

北上暮らしを
楽しもう！